

# 2005年度第1四半期 連結業績の概要

---

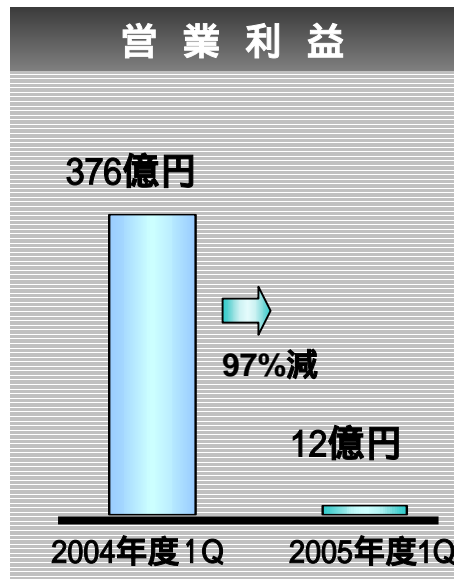
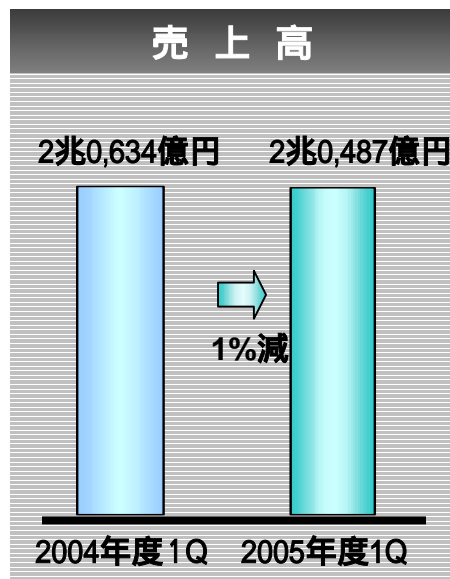
2005年7月28日

---

株式会社 日立製作所

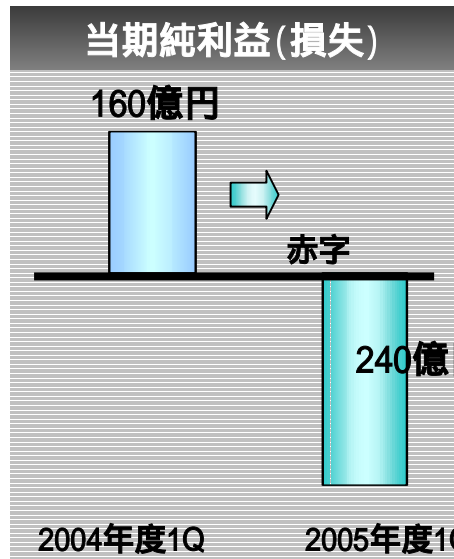
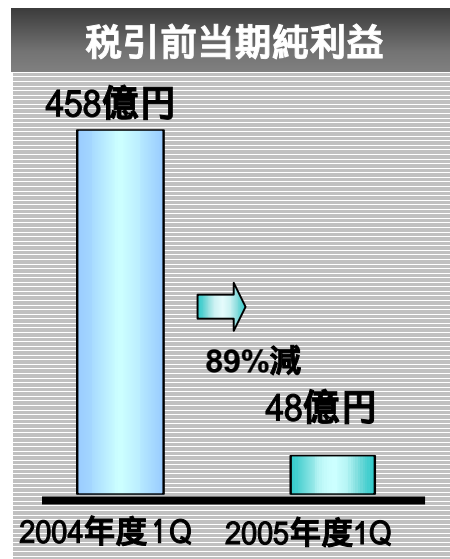
01

# 2005年度第1四半期 連結業績の概要



### 主な事業再編の売上高への影響額

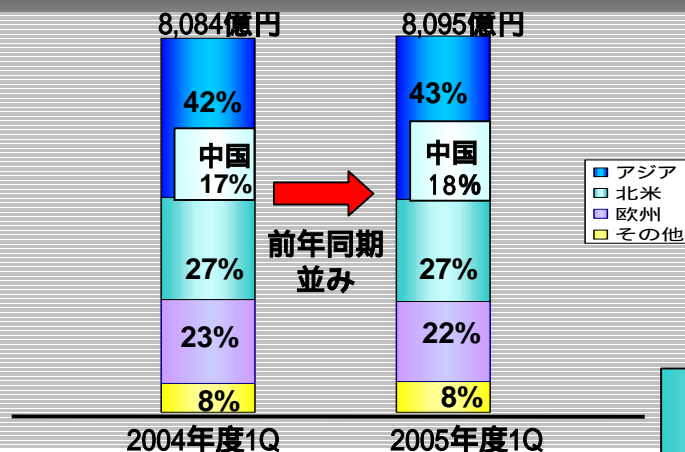
トキコ合併	+ 320億円
旧 日立プリンティングソリューションズ売却	120億円
富士通日立プラズマディスプレイ子会社化	+ 103億円



### 主な営業外損益の内訳

		(前年同期比)
為替差益	20億円	( + 19億円)
持分法損益	23億円	( 77億円)
有価証券損益	18億円	( 29億円)
固定資産損益	27億円	( + 46億円)

海外地域別売上高



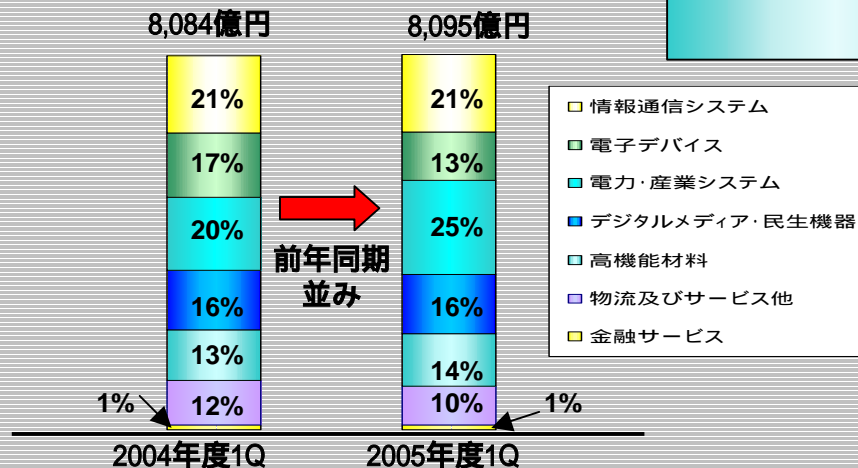
海外地域別売上高

- ・中国を中心にアジアが増加
- ・アジアでは、昇降機や光ディスク、ATM等が伸長。
- ・北米では、建機やストレージが伸長。
- ・欧州では、建機が増加したものの、ハードディスクドライブ等が減少

連結売上高に占める海外売上高比率

2004/1Q 39% → 2005/1Q 40%

海外部門別売上高

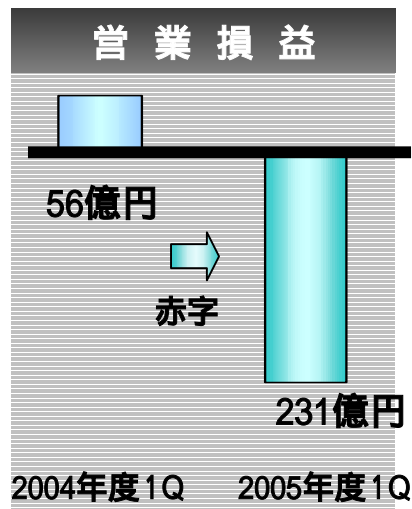
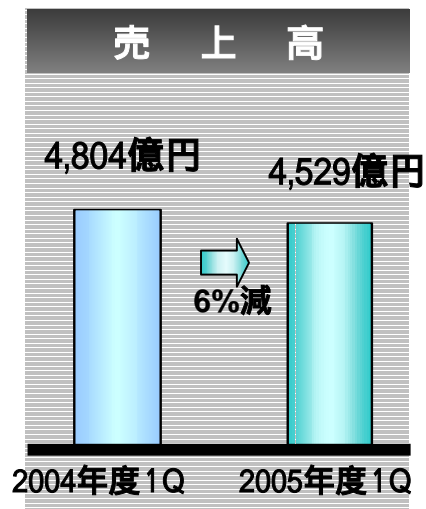


海外部門別売上高

- ・トキコ合併の影響に加え、海外火力発電設備や昇降機などを中心に電力・産業システムが伸長
- ・高機能材料部門も堅調

# 01 部門別状況(1)

## 情報通信システム



売上高	
<b>ソフト/サービス</b>	ソフトウェアが減収となったが、アウトソーシングを中心にサービスが伸長し、全体として増収
<b>ハードウェア</b>	旧日立プリンティングソリューションズの売却に加え、ATMが新札需要の反動減

営業損益	
<b>ソフト/サービス</b>	ソフトウェアの収益改善により、増益
<b>ハードウェア</b>	ATMの減益に加え、HDDが赤字

	2005年度1Q売上高	前年同期比
ソフト/サービス	1,904億円	102%
ハード (HDD)	2,625億円 (1,108億円)	89% (98%)

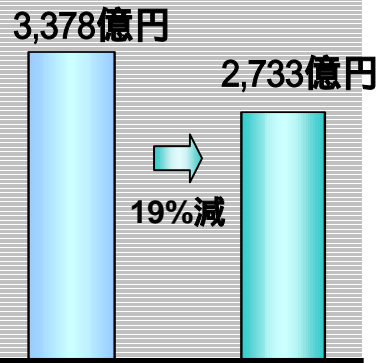
### 第1四半期の主な事業活動

アウトソーシング事業の拡大(北日本銀行など)  
セキュリティ事業強化(指静脈認証、暗号技術など)

(注)ハードディスクドライブ事業は、12月決算会社である日立グローバルストレージテクノロジーズ(日立GST)が行っており、3月決算会社である当社の2005年度1Q決算においては、日立GSTの2005年1 - 3月の数値を計上しています。

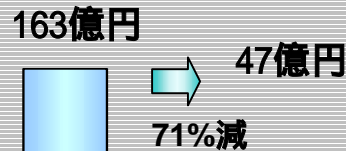
## 電子デバイス

## 売上高



2004年度1Q 2005年度1Q

## 営業利益



2004年度1Q 2005年度1Q

## 売上高

- ・携帯電話等向けの中小型を中心に液晶が減少
- ・日立ハイテクノロジーズ減収

## 営業利益

- ・価格低下などによりディスプレイが大幅に悪化

	2005年度1Q売上高	前年同期比	2005年度1Q営業損失	前年同期比
ディスプレイ	473億円	72%	49億円	-

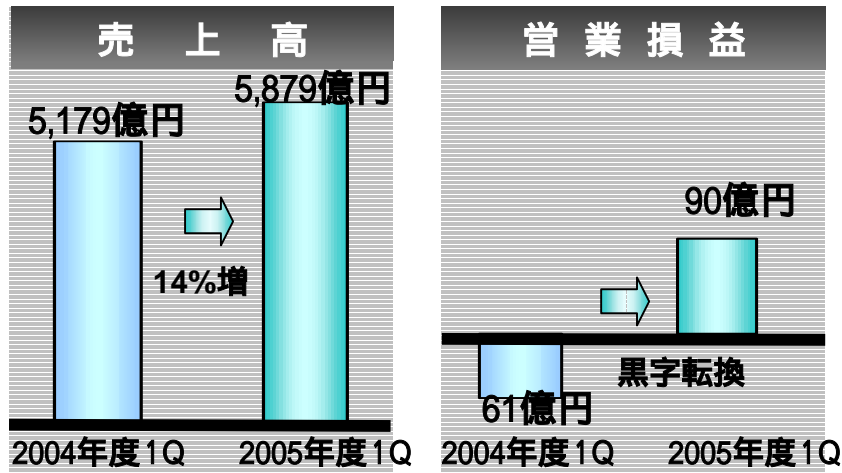
## 第1四半期の主な事業活動

IPSアルファテクノロジー 新工場建設の推進

日立ハイテクノロジーズが半導体検査装置新工場建設

日立ハイテクノロジーズが中国に100%出資商社を設立

## 電力・産業システム



## 売上高

- ・トキコ合併による増収
- ・海外向け火力発電、空調システム、昇降機等が伸長

## 営業損益

- ・不採算案件の減少
- ・空調システム、昇降機などが増益

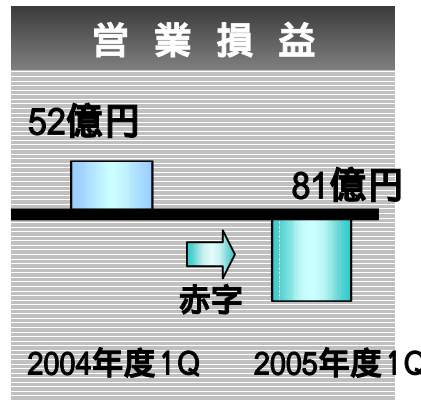
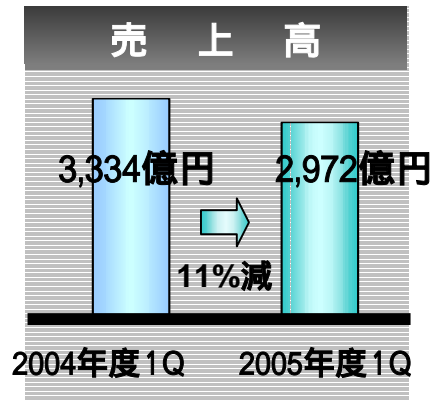
## 第1四半期の主な事業活動

車載情報システム事業拡大に向けたクラリオンとの提携強化

タイの昇降機製造・販売会社を連結子会社化

英国における鉄道車両及び保守メンテナンス受注

## デジタルメディア・民生機器



**売上高**

- ・富士通日立プラズマディスプレイ子会社化の影響
- ・競争激化によるデジタル家電の価格低下

**営業損益**

- ・富士通日立プラズマディスプレイ赤字
- ・競争激化によりデジタル家電・白物家電が減益

	2005年度1Q売上高	前年同期比
富士通日立プラズマディスプレイ	103億円	48%

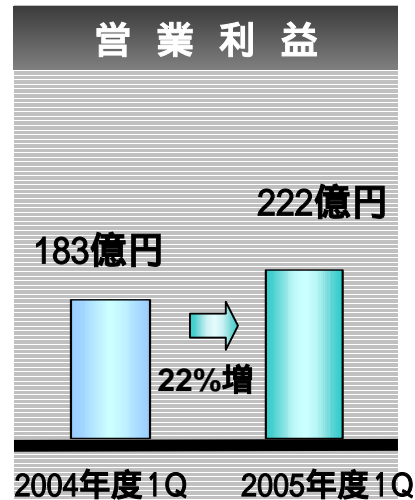
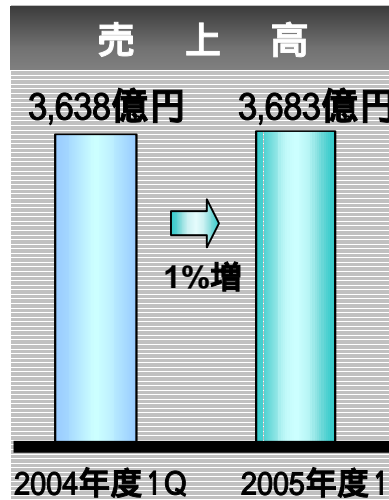
## 第1四半期の主な事業活動

- 富士通日立プラズマディスプレイの子会社化に加え増産投資の増額を決定
- 中国におけるプラズマテレビ増産投資を決定
- 高付加価値家電製品の投入強化(洗濯乾燥機、食器洗い乾燥機など)

(注) 光ストレージ事業は、12月決算会社である日立LGデータストレージ(HLDS)が行っており、3月決算会社である当社の2005年度第1四半期決算においては、HLDSの2005年1-3月の数値を計上しています。



## 高機能材料



**売上高**

- ・日立化成工業、日立金属及び日立電線が、堅調に推移

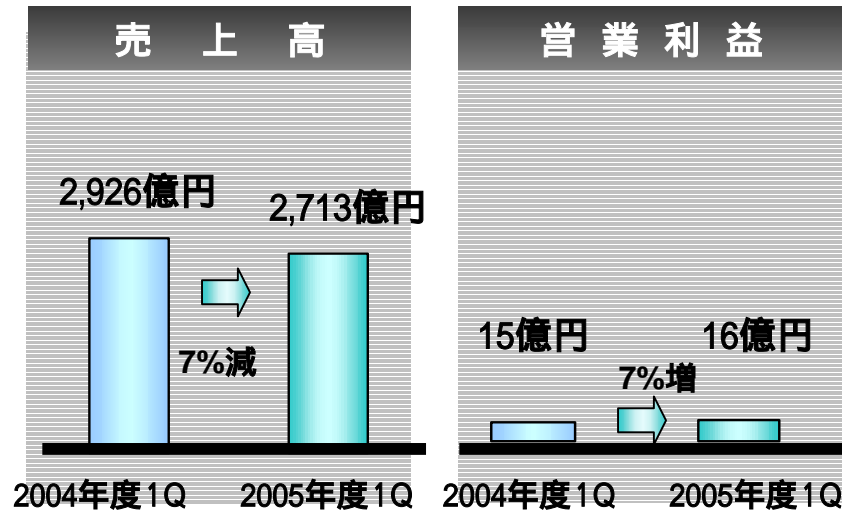
**営業利益**

- ・自動車関連分野を中心に堅調に推移

## 第1四半期の主な事業活動

日立化成工業が中国に電気絶縁ワニスの生産拠点を新設し生産開始  
 日立金属が軟質磁性材料事業をカンパニー化し、硬質磁性材料事業との二本柱で磁性材料事業を強化  
 日立電線が中国にトロリ線とワイヤロッドの製造・販売会社を設立

## 物流及びサービス他



## 売上高

- ・日立物流が堅調に推移
- ・日立モバイルは減収
- ・海外販売会社においてデジタル家電などが伸び悩み

## 営業利益

- ・日立物流が堅調に推移
- ・日立モバイルは低迷

## 第1四半期の主な事業活動

日立物流がトイレットリー業界向け共同物流センターを開設

日立モバイルがJU千葉(千葉県中古自動車販売商工組合)に、オートオークションシステムを納入

## 金融サービス

## 売上高

1,290億円 1,277億円

1%減

2004年度1Q 2005年度1Q

## 営業利益

49億円 61億円

24%増

2004年度1Q 2005年度1Q

## 売上高

・日立キャピタルが堅調に推移

## 営業利益

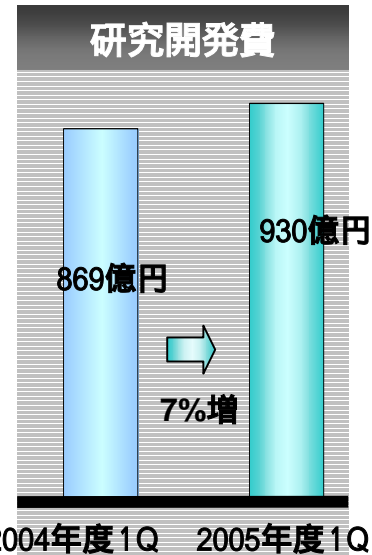
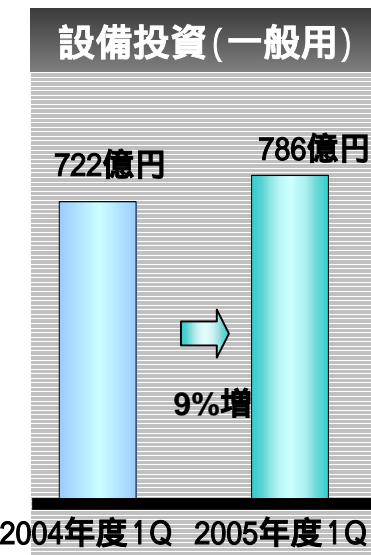
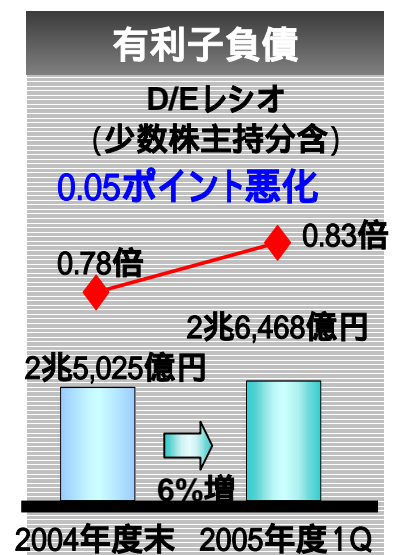
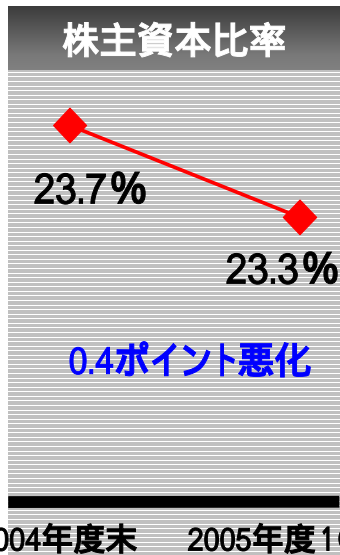
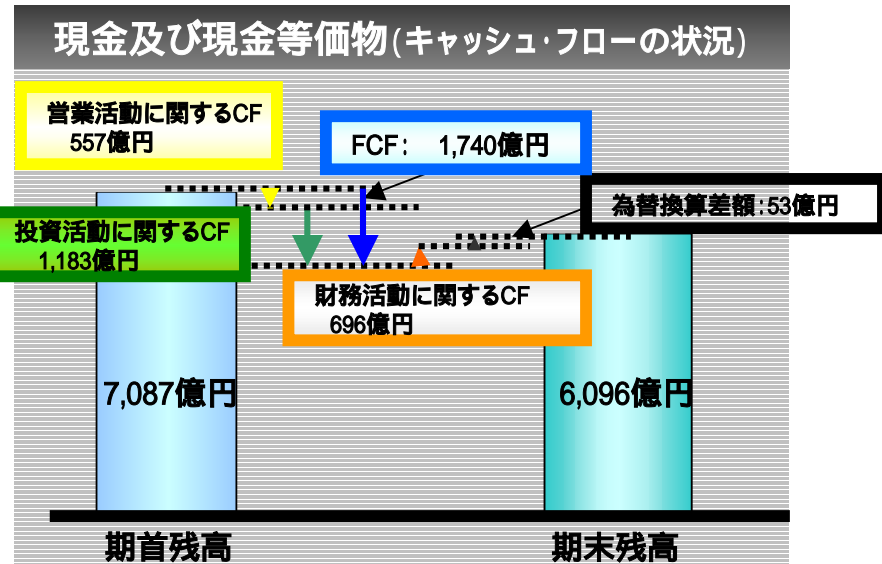
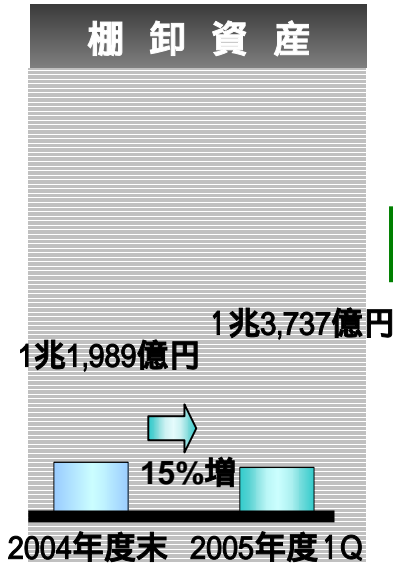
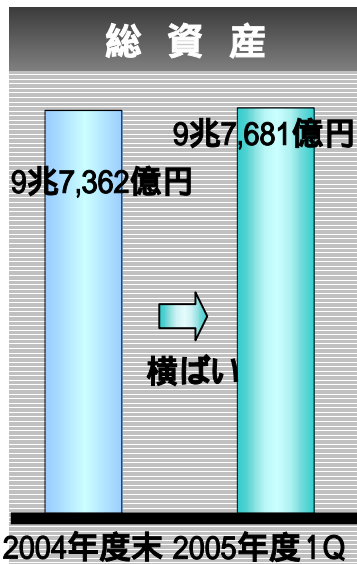
・コスト削減効果により日立キャピタル増益

## 第1四半期の主な事業活動

日立キャピタルが中国でリース会社を設立

日立キャピタル信託株式会社を設立

日立キャピタルが横浜市の「権太坂三丁目用地活用事業」を受託



# 02

## 2005年9月中間期 連結決算の見通し

## 2005年9月中間期連結決算の見通し

	2005年9月中間期	前年同期比
売上高	4兆4,000億円	102%
営業利益	700億円	55%
税引前当期純利益	700億円	51%
少数株主持分控除前利益	250億円	37%
当期純利益	0億円	-

## 2005年9月中間期見通し

2005年3月期決算発表時点(2005年4月28日時点)の見通しを変更せず

液晶を中心とした電子デバイスや、プラズマ事業などのデジタルメディア・民生機器は、弱含み

電力・産業システムや、高機能材料は、強含み

全体として、見通し達成を目指す

# HITACHI

Inspire the Next

## 将来予想に関する記述

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下の通りです。

- 市場における製品需給の変動及び価格競争の激化（特に情報通信システム部門、電子デバイス部門及びデジタルメディア・民生機器部門）
- 新技術を用いた製品の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当会社及び子会社の能力
- 急速な技術革新（特に情報通信システム部門、電子デバイス部門及びデジタルメディア・民生機器部門）
- 為替相場変動（特に円／ドル相場）
- 製品需給及び為替変動に対応する当会社及び子会社の能力
- 主要市場（特に日本、米国及びアジア）における経済・社会状況及び貿易規制等各種規制
- 自社特許の保護及び他社特許の利用の確保（特に情報通信システム部門及び電子デバイス部門）
- 事業構造改善施策の実施
- 製品開発等における他社との提携関係
- 資金調達環境（特に日本）
- 日本の株式相場変動